

自らの生から公共の知を共創する 次世代市民の育成に向けた教育の開発

Development of Educational Curriculum and Programs for the Citizen of Next-generations who can co-create public knowledge based on their own life experiences

研究代表者 岡部美香(人間科学研究科 教授)

研究協力者

[学内] 榎井緑(人間科学研究科 特任教授) 小川恵美子(人間科学研究科 博士後期課程) 川端映美(人文学研究科 博士前期課程)
高木万由葉(人間科学研究科 博士前期課程) 高木琳太郎(人間科学研究科 博士前期課程) 高田紗英子(人間科学研究科 博士後期課程)
古守真凛(人間科学研究科 博士前期課程) 増田叶夢(人間科学研究科 博士前期課程) 松本理沙(人間科学研究科 博士前期課程)
伊藤武志(SS1 教授) 今井貴代子(SS1 特任助教)

[学外] 江口玲(和歌山信愛大学 助教) 小栗一紅(劇作家・俳優・整体師) 菊池伊代(A'ワーク創造館 キャリアカウンセラー) 古波蔵香(福岡教育大学 講師)
塩川悠(福祉行政職・社会福祉士) 高見一夫(A'ワーク創造館 館長) 田熊美保(OECD教育スキル局 シニア政策アナリスト(日本OECD共同研究))
知念渉(神田外語大学 准教授) 筒井美紀(法政大学 教授) 野田満由美(NPO法人み・らいず2 ソーシャルワーカー) 林美輝(龍谷大学 教授)
古川知子(神戸親和女子大学 教授) 良原恵子(臨床心理士) 李舜志(法政大学 講師)

共同研究機関・連携機関

大阪府教育庁 大阪府福祉部 A'ワーク創造館(大阪地域職業訓練センター) Daigasグループ“小さな灯”運動(大阪ガスネットワーク(株)事業基盤部コミュニティ企画チーム)

1. プロジェクト概要

本プロジェクトは2022年7月に承認され、8月から活動を開始いたしました。1年めですので、少し詳しく概要を紹介させていただきます。

子どもやマイノリティの人びとをはじめとする「当事者参加型」の教育・福祉と、そのような教育・福祉を通して「市民参加型」の社会を構想・構築する——これが、私たちのプロジェクトのめざすところです。

このような教育・福祉、そして社会を実現するためには、まず、これまで社会のなかでずっと使用され続けてきた、とはいえ、実際にはもうすでに現実に即さず機能不全を起こしつつあるようなカテゴリー分けやシステムの区分——例えば、行政や学問の領域の区分、大人／子ども、男／女、専門職／素人、西洋／非西洋、ノーマル(「ふつう」)／アブノーマル(「逸脱」)、公／私、官／民など——といった境界(boundaries)をあらためて問い直す必要があります。そして、必要ならば、境界線を引き直す、境界線をなくす、境界線を越えて／超えて協働するなどの手立てを講じることが今日、必要になってきています。

この問い直しの過程において何より重要なのは、教科書や行政文書、マスコミなどが提示するオーソリティ(権力をもっている諸機関や人びと)からの「借り物」の言葉ではなく、子どもやマイノリティを含む市民一人ひとりが自らの生を象るために共創する〈ことば〉を重視すること、そしてその〈ことば〉を、よりよい社会を構想・構築するために、私たちの〈公共の知〉へと協働しながら醸成していくことのできる次世代の市民を育成することです。こうすることによって、従

来のカテゴリー分けやシステムの区分によって排除ないし周縁化されてきた人びとを置き去りにすることなく、当事者をはじめとする市民一人ひとりが参加しながら、さまざまな社会改革を進めることが可能になります。

本プロジェクトでは、さまざまな境界のあり様を問い直して再構成するという理論的・実践的な試みを展開していきます。また、子どもやマイノリティの人びとを含む市民一人ひとりが共創する〈ことば〉を〈公共の知〉ととらえることができるような教育カリキュラム・プログラムの開発をめざします。これらの活動を通じて、最終的には、子どもやマイノリティの人びとを含む市民・当事者が協働して〈ことば〉を共創したり発信したりするシステムやチーム体制の構築と普及にも取り組みたいと考えています。

2. 2022年の取り組みとプロジェクトの今後

【理論編】

大学・学部の境界をこえて、思想(理論)研究をするグループと実践理論研究をするグループを立ち上げることになりました。2023年から、年1~2回の合宿のほか、読書会や研究会などの機会に、本プロジェクトの主題に関する研究を促進していきます。2023年2月18日と3月4日に、それぞれのキックオフとなるシンポジウムを開催する予定です。

【実践編】

① 府立高校におけるキャリア教育リサーチ

2022年9月25日(日)に、A'ワーク創造館(大阪地域職業訓練センター)の高見一夫館長、大阪府立西成

「当事者参加型」の教育・福祉を通して 「市民参加型」の社会を構想・構築する

高校でキャリアカウンセラーとして活躍しているAワーク創造館の菊池伊代さん、そして、大阪府教育庁教育振興室の仲谷元伸副理事とともに、「高校生の就職とキャリア教育」に関する現状と課題を明らかにするサイエンス・カフェを開催しました。

2023年以降は、ここで明らかにされた課題と改善ポイントに取り組むべく、学校の先生方やキャリアカウンセラーへのインタビュー調査を開始する予定です。

②夜間中学リサーチ

2022年8月28日に開催された日本OECD共同研究・OECD国際共創プロジェクト「壁のないあそび場-bA- 場開きワークショップ」において、大阪府守口市立・守口さつき学園・夜間学級の生徒さん6名と先生方とともにワークショップを行いました。日本の夜間中学校の歴史と現在、そして実際に夜間中学校で学んでいる生徒さんがどのような経験をされてきた／いるかについて、日本語・英語の同時通訳を介して、世界の人々に向けて発信しました。参加者・視聴者からは、「とてもやさしい時間だった」「学びの本質とは何なのかを考える貴重な機会になった」などの感想をいただきました。登壇された夜間中学校の生徒さんからも「本当によい経験と思い出になった」とのお言葉を素敵な



2022年8月28日 OECD 国際共創プロジェクト 大阪会場



2022年8月28日 OECD 国際共創プロジェクト 東京会場



しゃべる、聴く、遊ぶ
演劇ワークショップ

笑顔とともにいただきました。

今後も、できればもう少し規模を大きくして、同じような試みを継続的に続けていきたいと思っています。

③演劇教育アクションリサーチ

大阪ガスネットワーク(株)事業基盤部コミュニティ企画チームの皆さんと劇作家・俳優の小栗一紅さんとともに、大阪府内の3つの児童養護施設の子どもたち(職員の方々も同伴)に向けた「しゃべる、きく、あそぶ演劇ワークショップ」を、それぞれの施設で(ないしは大阪ガス社内にある会場で)2~3回行いました。

2023年度は、力まず自分の〈ことば〉を話せるようなほぐれた、でも芯の強い身体づくりをテーマにした、子どもたちに向けた同じようなワークショップを継続するとともに、こうしたワークショップをしたいという学校・施設の教職員の方々に向けたワークショップを開発する予定です。

④SDGs教育・万博事業推進

2023年3月18日・21日に大阪大学SSIと日本OECD共同研究の主催で「私たちの創る『誰一人取り残さない』未来の社会」というイベントを開催することになりました。これは、国内外の社会課題について高校生・中学生が、学習してきたことを世界に向けて発表したり、それに基づいて世界の中学生・高校生と議論したりする企画です。SSIとして初めての国際イベントであり、OECD教育スキル局やUNESCO教育局EDS課等の国際機関・部署にご協力いただいているほか、国内でも、日本学術会議や大阪府・広島県の教育委員会、そして何より参加して下さる生徒さんたちとその周囲の先生方や地域の人びとに多大なご協力をいただいております。この企画は、2024年のOECD60周年記念行事へ、そして2025年の万博へと継続されることになっています。イベントの詳細については、来年の報告書で報告いたします。